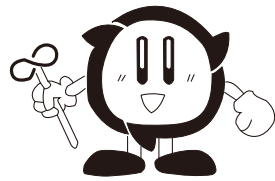


仙台メビウス通信

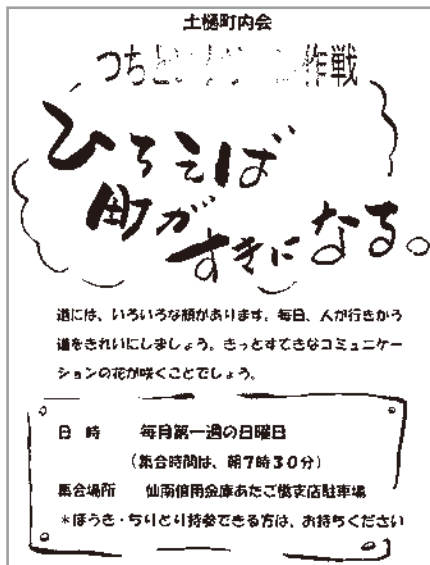
グリーン仙台推進員・グリーンメイトのコミュニケーション情報誌

仙台市リサイクル
シンボルマーク
「メビウスちゃん」



● 編集・発行 仙台市環境局廃棄物管理課
● 電話 214-8227

こんにちは推進員さん	1P
研修レポート「広報編」「排出実態調査報告会」	2P
仙台市環境局からのお知らせ	3~4P
メビウスちゃんの豆知識	4P



▲集積所に掲示しているポスターは、趣味の絵手紙をヒントに作成

土樋町内会
つちどび町内会
ひろえば町がすきになる。

道には、いろいろな顔があります。毎日、人が行きかう道をきれいにしましょう。さつとさつとコミュニケーションの花が咲くことでしょう。

日時 毎月第一週の日曜日
(集合時間は、朝7時30分)
集合場所 仙南信用金庫あたご橋支店駐車場
*ほうき・ちりとり持参できる方は、お持ちください

土樋町内会でグリーン仙台推進員を務める菊地孝さんは、昨年10月から毎月1回、地域の方とごみ拾い活動を行っています。

活動のきっかけとなったのは、2年前にご近所の方と始めたラジオ体操。当初は清掃活動をしていませんでしたが、東日本大震災以降、多くの方からの暖かい支援を受け、ボランティアに関心を持ち始めていた皆さんが、せっかくならとラジオ体操後にごみ拾いをするようになったそうです。「決して大きなことでもなく、自分たちに何かできることがないかと考えたとき、以前、小学生のわが子にきれいな道路を通学させたいとの思いでごみ拾いを行って

こんにちは推進員さん
ひろえば町がすきになる
【若林区】土樋町内会

いたことを思い出したんです」と、菊地さんは経緯を振り返ります。

こうしてラジオ体操仲間数人で始めた活動ですが、最近では毎回10人ほどが参加するようになったとか。菊地さんは「私たちの活動を見て、子どもの教育にと親子で参加してくれたり、地域の行事に無関心だった方が協力してくれたり、と、少しずつ地域に浸透してきました。また、一緒に活動することで自然と会話が生まれ、いい交流の場にもなっています」と話します。ごみ拾い活動は、単にまちがきれいになるだけでなく、「コミュニケーションの場を作るといって、一石二鳥の効果を生んでいるようです。



▲老若男女が参加して、ごみ拾い活動を行っています

「初めから町内全員の参加を目指す」と、調整が大変で前に進みません。小人数でもいいから賛同者とやってみることが大切だと思います。続けられれば協力者はおのずと増えてくるはず。そして、共に汗を流すうちに連帯意識が芽生え、まちへの愛着も生まれると思いますよ」と笑顔で話す菊地さん。無理強いないその姿勢が、まちづくりの担い手を育てています。

メビウスちゃんの豆知識

これから気温が上がり、飲み物が恋しくなる季節だね。

そこで今回は、缶・びん・ペットボトルの出し方に関する質問に答えまーす。



Q 缶・びん・ペットボトルを黄色の回収容器に入れるとき、種類別に分けなくていいって聞いたけど、なぜ？

A 仙台市では、主に次の理由で、「分けなくて入れる」ようお願いしているよ。

理由1. 回収容器を有効に使うため

種類別に入れると、例えば「缶用はまだ入るけど、ペットボトル用はあふれるから、回収容器を増やしてもらおう」、なんてことが生じて、多くの回収容器が必要になるんだ。回収容器を置く場所が狭い集積所も多いから、回収容器を有効に使って、通行の妨げにならないようにする必要もあるしね。

理由2. 収集効率を上げるため

回収容器を配布・回収する作業車が運べる数には上限があるから、必要となる数が多くなるほどコストが高くなって、収集効率が下がってしまうんだ。

最後に補足。収集後は資源化施設でコンベアに乗せて選別しているんだけど、この工程はリサイクルする上で大切なものだから、種類別に分けて収集しても省略できないんだよ。

環境事業所の電話番号

青葉環境事業所	277-5300
宮城野環境事業所	236-5300
若林環境事業所	289-2051
太白環境事業所	248-5300
泉環境事業所	773-5300

地域の環境学習を応援します!

◆環境に関する出前講座を紹介します

～環境教育・学習関連講座等実践支援事業

大学や市民団体などが実施する、無料で利用可能な環境出前講座(会場の準備は必要です)の情報を集めたパンフレットを作成しました。

パンフレットは、環境交流サロン(市役所一番町仮庁舎〔小田急仙台ビル〕9階)、区役所総合案内、総合支所などで配布しています。

〈問〉環境交流サロン214-1233

◆段ボール式生ごみリサイクル出前講座

家庭ごみの35%を占める生ごみ。その減量のコツや、段ボールなどで堆肥として資源化する方法を、地域に出向いて説明します。

●対象=おおむね20人以上の参加が見込まれる町内会等の地域団体10団体〔先着〕

●実施期限=9月30日(火)まで

●無料で利用できますが、会場は申込団体で準備してください(所要時間は2時間程度)

●受講者のうち、市内にお住まいで、段ボール式生ごみリサイクルに取り組み、後日送付するアンケートにご協力いただける方には、モニターセットを差し上げます。

〈申〉6月13日(金)午前9時から、電話でごみ減量推進課214-8229

◆3Rを楽しく学べます～3R講師派遣事業

3R(リデュース=ごみを出さない、リユース=繰り返し使う、リサイクル=資源化する)はごみ減量のキーワード。無料で派遣する3R講師が、3Rを学べる体験型講座を実施します。

古布や牛乳パックを利用した小物作り、生ごみで作った堆肥を使う野菜作り、ごみを出さない料理教室など、メニューは盛りだくさんです。

講座内容や申込方法など詳しくは、同封のチラシ「3R講師派遣事業」をご覧ください。

〈問〉ごみ減量推進課214-8230

平成26年度行事予定をお知らせします

各行事は郵送でご案内します。ぜひご参加ください。

主な行事		実施時期
グループ 学習会	・「やってみよう! 推進員活動」	6~9月
	・「初めの一步」	9月
	・「話し方のツボ」	9月
区ごとの 研修会	・環境事業所主催研修会	7~8月
	・排出実態調査報告会	2~3月
ごみ集積所排出実態調査		10月
環境施設見学会		10~11月
活動報告会(※)		1月
活動報告書の提出		3月
会報誌「仙台メビウス通信」発行(※)		6・9・12・3月

- ・実施時期や行事名称は変更する場合があります。
- ・(※)を除き、対象は推進員です。(「活動報告会」はメイトも対象です。また、「仙台メビウス通信」はメイト・町内会長にも郵送します)

〈問〉 廃棄物管理課 214-8227

仙台市環境局 かたのみ知らせ

◆ごみ集積所排出実態調査に 取り組んでみませんか

「ごみ集積所排出実態調査」は、各地域のごみの排出状況を推進員の皆さん自らにご確認いただくことで、改善点を把握し、今後の活動につなげていただくことを目的

としていきます。また、メイトや地域の方にも調査にご協力いただくことで、問題を共有化して解決への協力を得やすくする、推進員の活動を知らせてもらうなどの効果も期待できます。今回、募集案内を同封していますので、ぜひご参加ください。〈問〉お住まいの区の環境事業所 ※電話番号は4頁参照

研修レポート① グループ学習会「広報編」

「手作りポスターの掲示」は、地域の方々へのごみ出しルールの啓発活動として比較的取り組みやすいものの一つですが、せっかくのポスターも見てもらえなければ、その苦労が水の泡となってしまいます。そこで、1月に、「見てももらえるポスター作成のポイント」を学ぶ学習会を開催し、推進員約120人が参加しました。

前半は、参加者の皆さんが作成したポスター(全105点)を撮影してA3用紙2枚にまとめ、見比べてみました。「多くの内容が描いてあるものより、1つに絞って、かつ大きく描いてあるものが頭に残る」「イラストが入っていると目に留まる」「文字だけでも、色使いや表現を工夫したものは印象が強い」など、注目を集めるポスターには共通するポイントがあることに気付くことができました。



提出していただいたポスター(一部)。どれも力作です

続く後半では、前半の気付きを念頭に置きながら、ある程度完成したポスターを全員で手直ししてみることに。文字を少し大きくする、背景を黄色に変えるなど、わずかな修正を加えただけで受ける印象が一変し、会場からは驚きの声が上がりました。一度完成したポスターも、他の人の意見を聞きながら見直すことで、さらに効果的にしたり、イメージを変えたりできることを体感しました。ポスターを見るのは通りがりの数秒間。そのわずかなチャンスをつかむ、ちょっとしたコツを習得した学習会となりました。

研修レポート② 排出実態調査報告会

平成25年10月に、推進員の皆さんを中心に、メイトや地域の方々とも協力して取り組んでいただいた「ごみ集積所排出実態調査」の報告会を、2月から3月にかけて区ごとに開催しました。



交流を深める皆さん(若林区)

◀泉区では、参加者に、調査に取り組んだ感想と普段の活動を伺いました

まず初めに、環境事業所から、資源とごみの分別や出し方に関する自区の調査結果を、全市や他区と比較したり、集積所の様子を撮影した写真を示したりしながら報告。併せて、家庭ごみへの資源物の混入割合の増加や、多くのペットボトルがつぶされずに収集容器に出されている状況など、今回の調査から見えてきた改善点についても説明し、排出ルールの徹底に向け、協力をお願いしました。その後グループに分かれて、活動の悩みや成功事例を共有したり、意見を交わしたりして、交流を深めました。お手製の看板を披露する方や、さらに踏み込んだ独自の調査を行って、その結果を報告する方などの姿も見られ、参加者の推進員としての意識の高さを感じられました。すぐに打ち解け、尽きることない話題に花を咲かせた皆さんの和やかな話声で、どの会場も満たされていきました。

緊急分別宣言!!

みなさん、きちんとワケてますか?

東日本大震災後、家庭ごみの中の資源物の割合が急増しています。推進員やメイトの皆さまの中にも、普段の活動から、地域の方の分別意識の低下を感じている方も多いのではないでしょうか。

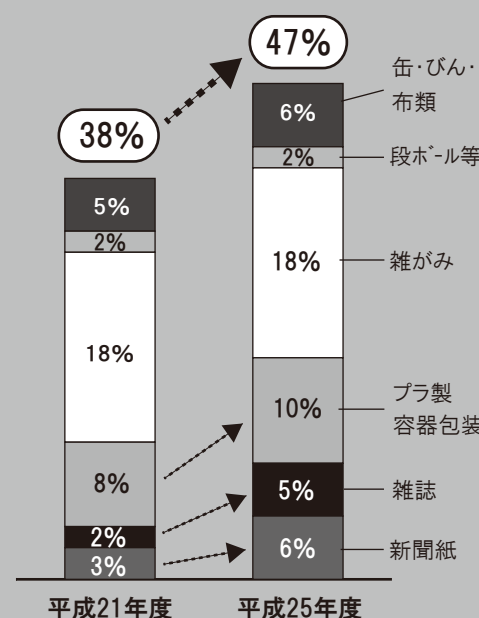
そこで、仙台市では、今年度、ごみの減量とリサイクルの基本的な行動である「分別」を、改めて市民・事業者呼び掛ける「緊急分別宣言! みなさん、きちんとワケてますか?」キャンペーンを実施することにしました。特に5月30日(金)から6月30日(月)までは、「ワケる強化期間」と位置付けて、ごみと資源物の分別状況や出し方をチェックする「ごみ集積所診断」や、小売店舗店頭での「分別相談会」など、さまざまな取り組みを集中的に実施し、分別の徹底と減量を図っていきます。

今回、キャンペーンチラシを同封しています。地域の方々方に回覧いただくなど、分別の徹底に向け、推進員・メイトの皆さまのお力添えをお願いします。

〈問〉ごみ減量推進課 214-8230

キャンペーン実施中!

■家庭ごみの中の資源物の割合



38%→47%まで増加